

氏名	下 山 敦 士
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 956 号
学位授与の日付	昭和 53 年 6 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	セネストパチーの臨床精神医学的研究
論文審査委員	教授 高坂睦平 教授 森 昭胤 教授 西本 詮

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

セネストパチー（体感症）として従来述べられた状態像は、実は種々の疾患群を含んでいるため、臨床に於て混乱を呈している。

著者はこの混乱を整理するため、奇異な体感異常を主症状として、長期間同一部位に訴えている症例を選び出し、明らかに器質的障害を持つものや、明白な分裂病及びうつ病は除外し、予後調査ができた22の症例につき臨床観察を行い、症候学的記述と類型分類を行った。

発症以来平均9年後の予後調査で体感異常は70%に認められた。Ⅰ～Ⅴ群まで類型分類できたが、Ⅰ群は神経症群、Ⅱ群は境界例より分裂病に移行したものの、Ⅲ群は妄想反応に属し、Ⅳ群は境界例群であった。Ⅴ群は上記いずれの分類にも入れることが困難な独特な症状を呈しているものである。すなわち、中年に於て、神経症の状態あるいは物理的身体侵襲等にひき続き発症し、体感異常は奇異な異物感などの苦悩に満ちた体験である。病的な強迫的態度とか、一時的に無為な状態を呈し、psychoticな色彩を持つ時期がある。慢性の経過をたどるが、分裂病心性はうかがわれない。このⅤ群の状態像を呈しているものを狭義のセネストパチーとして提言したいことを論じた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は従来その定義について曖昧であり異論があるところのセネストパチー (coenesthopathie) について、22例の現症と経過の観察を通して厳密な性格づけを試みたもので、セネストパチーの概念に対する新しい指針を与えたものであり、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。